



1. 北側全景
2. 建物東側の地下道へつながる動線
3. 12階オフィスサロンと11階外部テラス

大阪梅田ツインタワーズ・サウス、及び周辺公共施設整備概要

- 所在地 大阪府大阪市北区梅田1-13-1
- 建築主 阪神電気鉄道(株)、阪急電鉄(株)
- 設計者 (株)日本設計、(株)竹中工務店、UDS(株)、阪急設計コンサルタント(株)
- 施工者 (株)竹中工務店、(株)奥村組
- 竣工日 2022年2月25日

- 敷地面積 12,193㎡
- 建築面積 10,359㎡
- 延床面積 259,373㎡

- 階数 地上38階、地下3階、塔屋2階
- 構造 鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造



詳細や他の写真などは左記の二次元コードからWebページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2023 第64回BCS賞受賞作品》 WITH HARAJUKU / Entō / 大阪梅田ツインタワーズ・サウス、及び周辺公共施設整備 / 大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟 / 京都市美術館(京都市京セラ美術館) / シェルター・インクルージョンプレイス コバル / 渋谷 パルコ・ヒューリックビル / 清水建設北陸支店新社屋 / 新宮市文化複合施設(丹鶴ホール) / 那覇文化芸術劇場 なはーと / 日本女子大学白キャンパス再整備 / Port Plus / 丸紅ビル / ミチノテラス豊洲 / 早稲田大学本庄高等学院体育館



日建連表彰2023



第64回BCS賞

大阪梅田ツインタワーズ・サウス、及び周辺公共施設整備

選定理由

【選考委員】
中島 肇・篠原聡子・賀持剛一

大阪駅をあとにして、空中歩廊から、大阪梅田ツインタワーズ・サウスに向かうと、緑の織り込まれたアルミパネルの二四〇坪にもおよぶ印象的なファサードが目飛び込んでくる。このファサードは、かつてあった「大阪神ビルディング」と「新阪急ビル」の外壁の緩やかなカーブをトレースしているようで、新たな意匠でありながら、街の記憶が継承されている。このファサードの緑は、舗道の緑地、屋上庭園とも立体的に連携して、この地の在来種一二二種の植物により構成され、鳥や蝶などを地上から屋上広場まで導くことが計画されて、都市における生物多様性に寄与する計画となっており、単なる緑化計画に終始していない点も高く評価できる。

このプロジェクトは、駅前全体を

巻き込む大規模な再開発であり、その特徴的な側面は立体的な動線計画である。かつては、梅田と言えば地下通路のイメージが強かったが、今回の計画では、地下通路、地上の街路、空中の通路が立体的に組み合わせられ、しかもそれぞれが機能的な通路である以上に、自然光の落ちる地下通路や、駐輪場などを整理し拡幅し、滞在空間も敷設した地上の街路など、それぞれが独自の街路としての質を獲得している。百貨店とオフィスの接合部分にも街の人々がアクセス可能な屋上庭園やオフィスロビーとなる交流ストリートなど、機能間の境界が積極的にデザインされている点も特筆に値する。これらの立体街路と連携し、地下階、接階では、大規模な食品売り場が設けられており、周辺の賑わいづくりに貢献している。

オフィスタワーを特徴付ける垂直・水平フィンは、環境と室内から

の眺望の観点からシミュレーションされ、その取り付けの角度や高さが決定されており、ファサードを特徴付けながら環境装置として機能し、オフィスとしての眺望も損なわないものとなっている。環境面では、全体として、CASBE大阪みらいのSランクを取得するなど、高い環

境性能を実現している。

構造面でも、エキスパンションを取らずに無柱の三、五〇〇平方メートルの自由度の高い平面や連続するファサードを実現し、かつ世界最大級の減衰力を有する六、〇〇〇kN級オイルダンパーを使用し、高い安全性を持つ建築となっている。

八年にもわたる工事期間のなかで、解体から建設にかけて、できるだけ現況の営業活動を止めない配慮が最大限に払われたことは、この街が継続的に生き続けるために大きな効果をもったことであろう。場所の独自性を創出しながら、豊かに中間領域を巻き込んだこの都市空間が今後どのように人々へシティブライドを感じさせる場所となるかは、運営体制にかかっている。既に、活発に活動を開始している複数の事業主主導のエリアマネジメントの活動にも大いに期待がもてそうである。